

砲兵操典
練乘之馬部教

特65-741
1200800265681

特
7



始



特65

741

№20851/22



砲兵操典

乘馬教練目次

乘馬各個教練

總則

第一教

豫行演習

飛乘

馬上ノ姿勢

目次



全一

丁

三

丁

六

丁

七

丁

飛下	九丁
飛下飛乗	十丁
韁捌	十一丁
靜止間柔軟躰操	十三丁
行進間柔軟躰操	十八丁
輕乗	十九丁
飛乗飛下ノ運動	二十丁
乗馬中左(右)或ハ後ニ	

向ク運動	全
横向ニ飛乗ル運動	二十一丁
横向騎坐中跨リ或ハ越 ユル運動	全
馬ヲ越ユル運動	二十二丁
片手ニテ飛乗ル運動	二十三丁
鋏乗ノ運動	二十四丁
機ミヲ用ヒ横ヨリ飛乗	

ル運動

二十四丁

機ミヲ用ヒ横ヨリ馬ヲ

越ユル運動

二十五丁

機ミヲ用ヒ後ヨリ飛乗

ル運動

二十六丁

駟騾中飛乗飛下ノ運動

全

駟騾ニテ乗馬シアル片

右(左)脚ヲシテ頸側ヲ

越エ飛下シ直ニ飛乗ル

運動

二十七丁

駟騾ニテ横向騎坐中馬

ヲ越ユル運動

二十八丁

駟騾ニテ乗馬シアル片

狭乗ノ運動

全

第二教

水勒演習

二十九丁

常騷	三十三丁
直進、駐立	三十四丁
轉回	三十五丁
背轉	三十六丁
右(左)手前行進	三十七丁
急騷	三十九丁
常騷ヨリ急騷、急騷ヨリ	
常騷行進	全

横(縦)方廻轉	四十丁
各個廻轉	四十二丁
横(縦)方手前變換	四十二丁
斜×手前變換	四十三丁
卷乘	四十四丁
半卷	全
退却、駐立	四十五丁
常(急)騷ノ伸縮	四十七丁

靜止ヨリ急騾、急騾ヨリ
 駐立 四十九丁
 拍車ノ用法 五十丁
 離列法 五十一丁
 急騾ヲ伸暢シテ漸次ニ駈
 騾ニ移ル法 五十三丁
 横騾 五十五丁
 駈騾 五十六丁

常(急)騾ヨリ駈騾、駈騾
 ヨリ急(常)騾行進 五十七丁
 靜止ヨリ駈騾、駈騾ヨリ
 駐立 五十九丁
 鐙ノ用法 六十丁
 乘馬、下馬 六十二丁
 輪乘 六十五丁
 輪乘變換 六十七丁

障碍通過

六十七丁

第三教

大勒演習

六十八丁

大韁及ヒ小韁ヲ執ル法

六十九丁

大勒小勒ヲ用ヒ水勒演習

七十二丁

ノ復習

大距離演習

全

障碍通過

七十六丁

野外演習

八十二丁

附録

乗馬成列教練

八十五丁

横隊ノ運動

八十八丁

乗馬、下馬

全

整頓

九十丁

直進、駐立

九十二丁

退却、駐立

九十四丁

縱隊ノ運動

九十五丁

二騎縱隊ニ分解

全

直進、駐立

九十六丁

方向變換

九十七丁

分解、併合

九十九丁

橫隊ノ編成

百一丁

砲兵操典

乘馬教練

乘馬各個教練

總則

第一條

此教練ノ目的ハ兵卒ヲシテ各個ニ馬匹ヲ制馭スル
コニ熟セシムルニアリ

此教練ニ於テハ六騎乃至八騎ヲ以テ一組ト爲シ一名ノ下士ヲ以
テ教官トシ其他ノ下士或ハ上等兵ヲ以テ助教トス

教官ハ定位ナシ説明スル爲メ要スレハ下馬スヘシ教官ノ姿勢ハ

總則



常ニ端正ニシテ兵卒ノ摸範トナルヲ要ス

兵卒ノ馬匹ハ時々交換シテ乗習セシムヘシ而シテ始ノ演習ニハ柔順伶俐ナル馬ヲ撰用スヘシ

演習ハ常騷ヲ以テ始メ常騷ヲ以テ終ルヘシ

演習ヲ始ムルニハ教官「氣ヲ着ケ」ト令ス此令ニテ兵卒ハ其姿勢ヲ正スヘシ

兵卒ヲ休憩セシムルニハ教官「休メ」ト令ス此令ニテ兵卒ハ姿勢ヲ自由ニシ且ツ韁ヲ緩ムルヲ許ス然レモ之ヲ放ツニ至ル可ラス又休憩中ハ兵卒馬ヲ常騷ニテ行進セシメ且ツ之ニ自由ヲ與フヘシ

シ但シ騷度ヲ變更ス可カラズ

演習ヲ終リ解散セシムルニハ教官「右(左)(右左)ヨリ分レ」進メト令ス此令ニテ右(左)(右左)方兵卒ハ右(左)ニ轉回シテ行進シ他ノ各兵卒ハ先行兵卒ヨリ一米ノ距離ヲ保テ之ニ從フヘシ

此教練ヲ分チ豫行演習、水勒演習及ヒ大勒演習トス

第一教及ヒ第二教ノ演習ヲ行フニハ作業衣袴ヲ着用セシムルヲ良トス

第一教

豫行演習

豫行演習

第一條 豫行演習ハ新兵ヲシテ凝ヲ解キ馬ニ馴レシメ騎坐
ヲ固クシ尙ホ後來ノ諸教ヲ準備セシムルヲ目的トス

第二條 調馬索演習ハ新兵ノ怯心ヲ減セシメ其進歩ヲ速カ
ナラシムルノ利益アリ而シテ輕乘法ハ之ヲ補充完全スルニ甚ダ
緊要ナルモノトス

調馬索演習ハ輕乗勒ヲ用フルカ或ハ索ヲ水勒ノ兩環ニ貫通シ以
テ施行ス其法一名或ハ二名ノ兵卒ヲシテ徒歩ニテ索端ヲ保チ馬
匹ヲシテ其周圍ニ圈行セシメ他ノ一名ノ兵卒ヲシテ調馬鞭ヲ執
テ其側ニアラシム此兵卒ハ唯ダ其鞭鳴ノミニ由リテ馬匹ノ行進

四

ヲ促シ之ヲ馬體ニ觸レシメサル丁ニ注意スヘシ

第四條 豫行演習ハ可成箱馬場若クハ圍牆アル演馬場ニ於
テ行フヘシ

馬ニハ鞍ヲ置キ水勒ヲ裝シ鐙ハ其革ト共ニ脱シ置クヘシ
新兵稍々騎坐ヲ保チ得ルニ至レハ鞍囊ヲ除キ又時々鞍褥ノミヲ
用ヒテ演習セシムヘシ

第五條 兵卒馬ニ馴ル、ニ至ル迄ハ徒歩ニテ馬ヲ演馬場又
ハ厩ニ導クヘシ其馴ル、ニ至レハ乘馬ニテ往復ス
徒歩ニテ馬ヲ導クニハ韁ヲ馬頸上ニ懸ケ右手ノ爪ヲ下ニ向ケ馬

豫行演習

五

口ヨリ十五珊米隔テ食指ヲ兩韁間ニ挿シ之ヲ握ル馬若シ躍飛ス
ルキハ右手ヲ上ケテ固ク韁ヲ保ツヘシ

演馬場ニ到レハ教官ノ告示ニテ馬場ノ縦ナル中央線上ニ各三米
ノ間隔ヲ保チ一列ニ並ヒ此中央線ト直角ニ馬ヲ正シク置クヘシ
馬ヲ正シク置クトハ四肢ヲ垂直ニシ頭、頸及ヒ體ヲ同方向ニア
ラシムルヲ云フ

兵卒ハ馬ノ左側ニ占位シ己レノ右脇ヲ馬ノ頤ト同シ高サニシ右
手ニ韁ヲ執リテ徒歩ノ姿勢ニ在ルヘシ

飛乘

第六條

飛乘ヲ爲サシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

飛乘レ

「飛乘レ」ノ令ニテ兵卒ハ右向ヲナシ右手ヲ左韁ニ沿フテ滑ラシ
ツ、一步右横ニ倚リ馬ノ左肩ニ面シ左手ノ助ヲ以テ右手ニ兩韁
ヲ持チ其上端ヲ小指ノ方ヨリ出シ其手ヲ鞍頭ニ置キ左手ニ韁ノ
上ヨリ鬣毛ヲ握リ其端モ亦小指ノ方ニ出ス
兩拳ニ力ヲ入レテ活潑ニ飛上リ一霎時間此姿勢ヲ存ス
右脚ハ馬臀ヲ越エ輕ク鞍ニ跨ル

馬上ノ姿勢

第七條

兵卒ハ兩手ニ水勒ノ韁ヲ分チ諸指ヲ閉チ兩拳ヲ約十五冊米離シテ肘ノ高サニシ兩手ノ四指ヲ對向セシメ韁ヲ小指ノ方ヨリ食指ノ第二節上ニ出シ拇指ヲ以テ之ヲ壓ス
臀ハ同等ニ鞍上ニ安シ勉メテ前方ニ出シ又股ハ凝ラスシテ其内面ヲ鞍ニ接シ左右均シク馬體ヲ挾ミ其重ト脚ノ重トニ從テ自然ニ垂ル

膝ノ屈折部ハ善ク鞍ニ附着ス
脚ト足先ハ自由ニシテ自然ニ垂ル
腰ハ凝ルコナク騎坐スヘシ

体ノ上部ハ正直ニシテ自由ナルヘシ

兩肩ハ退ケテ均シク垂ル

腕ハ自由ニシテ肘ハ自然ニ垂レ輕ク体ニ接ス

頭ハ正直ニシテ自由ニシ肩ニ引付ケス

飛下

第八條

飛下ヲ爲サシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

飛下リ

「飛下リ」ノ令ニテ兵卒ハ右韁ヲ左手ニ移シ其韁ノ上端ハ拇指ノ方ニ出シ再ヒ右手ノ爪ヲ下ニ向ケ左手ノ拇指ニ接シテ兩韁ヲ持

十
チ鞍頭ニ置キ左手ニ韁ノ上ヨリ鬣毛ヲ握リ毛端ヲ小指ノ方ニ出
ス

兩拳ニ力ヲ入レテ体ヲ維持シツ、右脚ハ馬臀ヲ越エテ左脚ニ接
シ一霎時間此姿勢ヲ存ス

輕ク足先ヨリ地ニ着シ左向ヲナシ右手ハ左韁ニ沿テ滑ラシツ、
一步前進シ第五條ニ示ス如ク姿勢ヲ執ル

飛下飛乘

第九條

飛下飛乗ヲ爲サシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス
飛下り飛乗レ

「飛下り飛乗レ」ノ令ニテ兵卒ハ第六條第八條ニ習ヒシ法ヲ用ヒ
飛下り直ニ飛乗ル

此運動ハ行進間ニ於テモ亦之ヲ行ハシム

韁捌

第十條

韁ヲ片手ニ執ラシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス
左(右)ニ韁ヲ執レ

「左(右)ニ韁ヲ執レ」ノ令ニテ兵卒ハ左(右)手ヲ体ノ中央前ニ來
タシ右(左)手中ニ在ル韁ヲ左(右)手ニ十字ニ執リ其手ノ甲ヲ上
ニシテ右(左)手ハ脇ニ垂ル

第十一條 韁ヲ左(右)手ニ執リ在ルキ之ヲ兩手ニ分ケシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

韁ヲ分ケ

「韁ヲ分ケ」ノ令ニテ兵卒ハ兩手ニ韁ヲ分ツ

第十二條 韁ヲ調フルニハ兩拳ヲ互ニ近ツケ右(左)手ノ拇指ト食指トヲ以テ左(右)韁ヲ左(右)拇指ノ上ニ就テ撮ミ之ヲ高ク上ケ輕ク馬口ニ感セシム全時ニ左(右)手ハ指ヲ少シク開キ馬頸ノ方ニ進メ適度ノ處ニテ指ヲ閉ツ

第十三條 韁ヲ放タシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

韁ヲ放テ

「韁ヲ放テ」ノ令ニテ兵卒ハ兩韁ノ中央ヲ鞍頭ノ後方ニ懸ケテ兩手ヲ脇ニ垂ル

第十四條 韁ヲ兩手ニ執ラシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

韁ヲ執レ

「韁ヲ執レ」ノ令ニテ兵卒ハ兩手ニ韁ヲ執ル

靜止間柔軟躰操

第十五條 此演習ハ「始メ」ノ令ニテ運動ヲ起シ「止メ」ノ令ニテ之ヲ終リ故トノ姿勢ニ復ス故ニ「始メ」ノ令ヨリ「止メ」ノ令

アル迄ハ連續運動ヲ施行スヘシ
静止間臂ノ運動ヲ行フニハ兵卒其豫令ニテ前ニ示ス如ク兩韁ヲ
放ツ

第十六條 臂ノ運動ハ体操教範停止演習臂ノ運動ノ要旨ニ
從ヒ施行スヘシ

第十七條 体ヲ前(後)ニ曲クル運動ヲ爲サシムルニハ教官
左ノ令ヲ下ス

- 一 体ヲ前(後)ニ曲ケ
- 二 始メ

「始メ」ノ令ニテ兵卒ハ手ヲ鞍ニ倚托スルコトナク寛カニ上体ヲ
カメテ前(後)方ニ傾ケ膝ノ位置ヲ崩スヲナク頭ヲ馬頸(馬臀)ニ
觸レシムルニ至リ然ル後ヲ故トノ姿勢ニ復ス

第十八條 兩股ヲ上ル運動ヲ爲サシムルニハ教官左ノ令ヲ
下ス

- 一 股^{モ、}ヲ上ケ
- 二 始メ

「始メ」ノ令ニテ兵卒ハ韁ヲ持チタル儘兩手ヲ鞍頭ニ置キカメテ
臀ヲ前方ニ出シ兩膝ヲ一齊ニ上ケ股ヲ水平ニシ兩肩ノ姿勢ヲ亂

ス₁ナク脚及ヒ足先ヲ自然ニ垂ル然ル後チ故トノ姿勢ニ復ス

第十九條

右(左)股ヲ廻サシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

- 一 右(左)股^{モ、}ヲ廻セ

- 二 始メ

「始メ」ノ令ニテ兵卒ハ右(左)膝ヲ鞍ヨリ離シ脚ヲ伸ヘ前方ヨリ外方ニ輪形ヲ畫キカメテ之チ後方ニ引キ然ル後チ股ヲ鞍ニ接シツ、舊位ニ復ス

第二十條

兩脛ヲ曲ケシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

- 一 脛^{ズキ}ヲ曲ケ

- 二 始メ

「始メ」ノ令ニテ兵卒ハ股ヲ能ク鞍ニ附着シ兩脛ヲ馬體ニ觸レシムルコトナク水平ニ至ル迄屈曲シ然ル後チ靜ニ故トノ姿勢ニ復ス

第二十一條

兩足先ヲ廻サシムルニハ教官左ノ令ヲ下ス

- 一 足^{ツマサキ}先ヲ廻セ

- 二 始メ

「始メ」ノ令ニテ兵卒ハ姿勢ヲ亂ス₁ナク兩足先一齊ナル運動ヲ以テ内ヨリ外或ハ外ヨリ内ニ靜ニ輪形ヲ畫ク

第二十二條

騎坐變換ヲ爲サシムルニハ教官左ノ令ヲ下

ス

一 騎坐ヲ換ヘ

二 始メ

「始メ」ノ令ニテ兵卒ハ故ラニ右ニ重心ヲ失ヒ而シテ手ノ扶ナク故トニ復シ續テ右ヨリ後ニ上體ヲ向ケ再ヒ之ヲ故トニ復シ然ル後左方ニ就テ同一ノ運動ヲ行フ

行進間柔軟體操

第二十三條

行進間柔軟體操ヲ行ハシムルニハ股ヲ廻ス

運動ヲ除クノ他靜止間柔軟體操ノ要領ニ從ヒ之ヲ施行シ而シテ其先頭ニ助教一名ヲ置キ之ヲ蹄跡ニ行進セシメ他ノ兵卒ヲシテ之ニ跟隨セシム而シテ此助教ハ柔軟體操ヲ行フナシ

輕乘

第二十四條

輕乘ハ靜止及ヒ駈馳行進間ニ於テ之ヲ行フ

靜止間ノ運動ハ最初機ミヲ用ヒスシテ行ヒ後チ機ミヲ用ヒテ行フ

靜止間ノ演習ニ用フル馬ハ水勒ノミヲ裝ス而シテ一名ノ兵卒ヲシテ馬頭ニ在テ之ヲ保タシメ他ノ一名ヲシテ運動ヲ行フ所ノ兵

卒ノ反對側ニ在テ其墜落スルヲ防カシム
駢駢ニテ運動ヲ行フキハ大腹帶及ヒ輕乘勒ヲ裝ス

飛乘飛下ノ運動

第二十五條 兵卒ハ第六條第八條ニ説明シタル如ク飛乘
飛下ヲ爲スト雖モ其右手ハ馬ノ肩胛上ニ置クヲ異ナリトス
兵卒馬ノ左側ヨリ飛乘飛下ヲ爲シ得ルニ至レハ又馬ノ右側ヨリ
モ之ヲ行ハシム

乘馬中左(右)或ハ後ニ向ク運動

第二十六條 左(右)ニ向クニハ兩腕ヲ胸前ニ於テ組ミ體

ニ接シ右(左)脚ヲ馬ノ肩胛上ヨリ左(右)ニ越エシメ左(右)脚ニ
合ス又左(右)向騎坐中後ニ向クニハ左(右)脚ヲシテ馬ノ臀部上
ヲ越サシメ自己ノ臀ヲ軸トシテ旋リ後向ニ跨ル
後向騎坐中故トニ復スルニハ前ト同方法ヲ用フ

橫向ニ飛乘ル運動

第二十七條 此運動ハ飛乘ト同方法ヲ用ヒ拳力ニ由テ體
ヲ維持シツ、左(右)向ニ坐シ同時ニ兩手ヲ放チ之ヲ垂ル

橫向騎坐中跨リ或ハ越ユル運動

第二十八條

左(右)横向騎坐中跨り或ハ越ユルニハ右(左)手ヲ馬ノ肩胛上ニ當テ左(右)手ニ鬣毛ヲ握リ頭及ヒ体ノ上部ヲ前ニ下ケ兩拳ニテ支持シ臀及ヒ併接シタル兩脚ヲ馬臀ノ上方ニ投揚ス

然ル后チ馬ニ跨リ或ハ馬ノ右(左)肩ノ側ニ兩足先ヨリ一齊ニ飛下リ同時ニ兩手ヲ伸ハシテ上方ニ上ク

馬ヲ越ユル運動

第二十九條

左(右)ヨリ馬ヲ越ユルニハ兵卒ハ飛乗ノ如ク位置シ兩足ヲ踏切り兩拳ニカチ入レテ体ヲ扛ケ其上部ヲ馬ノ

右(左)肩ノ方ニ傾ケ兩腕ニテ体ヲ保チ併接シタル兩脚ヲ馬臀ノ上方ニ投揚シテ之ヲ越エ馬ノ右(左)肩ノ側ニ兩足先ヨリ一齊ニ飛下リ同時ニ兩手ヲ伸ハシテ上方ニ上ク

片手ニテ飛乗ル運動

第三十條

左(右)ヨリ片手ニテ飛乗ルニハ兵卒ハ左(右)手ニ鬣毛ヲ執リ馬ノ左(右)肩前ニ立チ左(右)臂ヲ馬ノ頸側ニ托シ左(右)足ヲ前ニ出シテ右(左)肩ヲ下ケ且ツ退ケ而シテ右(左)臂ヲ伸ハシテ稍々後方ニシ然ル後活潑ニ之ヲ前ニ出シ右(左)脚ヲ開キツ、飛乗ヲ爲ス

鉄乗ノ運動

第三十一條

乘馬中鉄乗ヲ爲スニハ兵卒ハ兩手ヲ馬ノ肩
 胛上ニ當テ諸指ヲ合セテ稍々外ニ向ケ兩脚ヲ前後ニ振りツ、兩
 拳ニテ体ヲ保チ而シテ其上体並ニ頭ヲ前ニ下ケ機ミヲ用ヒテ脚
 ヲ交叉シ後ニ向キ体ヲ起スト同時ニ兩手ヲ放テ自然ニ垂ル
 前向ニ復スルニハ馬臀ノ平部ニ兩手ヲ當テ前ト同法ヲ以テスヘ
 シ

機ミヲ用ヒ横ヨリ飛乗ル運動

第三十二條

兵卒ハ馬ノ左(右)方ヨリ駈來リ之ヲ距ル大

約五十珊米ノ地ニ飛込ミ兩足先ニテ踏切り同時ニ左(右)手ヲ馬
 ノ肩胛上ニ右(左)手ヲ其背上ニ當テ之ニ力ヲ加ヘテ跳揚リ右
 (左)脚ヲ開キテ高ク舉ケ乘馬ヲ爲ス

機ミヲ用ヒ横ヨリ馬ヲ越ユル運動

第三十三條

兵卒ハ馬ノ側方ヨリ駈來リ之ヲ距ル大約一
 米ノ地ニ飛込ミ兩足先ニテ踏切り同時ニ兩手ヲ接シテ馬ノ臀部
 ニ當テ之ニ力ヲ加ヘテ跳揚リ兩脚ヲ伸シタル儘充分ニ左右ニ開
 キ之ヲ馬ニ觸レシムルヲナク前方ニ飛超エ兩足先ヲ接シテ地上

機ミヲ用ヒ後ヨリ飛乗ル運動

第二十四條 兵卒ハ馬ノ後方ヨリ駈來リ之ヲ去ル大約七十珊米ノ地ニ飛込ミ兩足先ニテ垂直ニ烈シク踏切り同時ニ體ヲ前方ニ傾ケ腰ヲ舉ケ兩脚ヲ開キ兩手ヲ背部ニ當テ之ニ力ヲ加ヘ徐ニ體ヲ起シ馬背ニ跨ル此際兩臂ヲ前方へ水平ニ伸ス

駈騾中飛乗飛下ノ運動

第二十五條 左(右)ヨリ飛乗飛下ヲ爲スニハ兵卒ハ左(右)手ニ左(右)鉤ヲ握リ爪ヲ上ニ向ケ右(左)手ニ右(左)鉤ヲ把

リ爪ヲ下ニシ兩足一齊ニ跳進シ馬ノ左(右)前肢ニ準ヒ而シテ機ミヲ發シテ飛乗リ然ル後兩拳ニテ體ヲ扛ケ以テ馬ノ左(右)肩線前ニ飛下ル
教官ハ又兵卒ヲシテ同要領ニ從ヒ飛下ノ後直ニ飛乗スルヲ習ハシム

駈騾ニテ乘馬シアル片右(左)脚ヲシテ頸側ヲ越テ飛下シ直ニ飛乗ル運動

第三十六條 兵卒ハ兩鉤ヲ握リタル手ヲ順次ニ放チ右

(左)脚ヲシテ頸上ヲ越エシメ左(右)脚ニ合セ順次ニ鉤ヲ握リテ
飛下リ又飛乗ル

駈蹕ニテ横向騎坐中馬ヲ越ユ ル運動

第二十七條 兵卒ハ左(右)向騎坐中馬ノ左(右)肩前ニ飛
下リ直ニ右(左)ニ馬ヲ越ユ而シテ再ヒ飛乗ル
乗馬ノ姿勢ヨリ直ニ此運動ヲ行フキハ左(右)肩前ニ飛下リテ後
右ニ示ス如ク行フヘシ

駈蹕ニテ乗馬シアル片鋏乗ノ運

動

第二十八條 兵卒ハ第三十一條ニ示セル方法ニ從フ然レ
モ兩手ハ兩鉤ヲ握ル可シ
後向騎坐中他ノ運動ヲ行ハントスレハ一旦横向騎坐ニ移ルヘシ

第二教

水勒演習

第二十九條 此演習ノ目的ハ兵卒ニ諸駈術ヲ教ヘ其騎坐
ヲ固フシ且ツ豫行演習ニ於テ教ヘタル姿勢ヲ確實ナラシムルニ
アリ

第四十條

此演習ハ長方形ノ馬場ニテ行ヒ其隅角及ヒ縱橫側ノ中央ニハ標旗或ハ他ノ著明ナル目標ヲ設クヘシ

馬場ハ大約其縱ヲ九十米其横ヲ三十米トス而シテ蹄跡著ルシク顯ハルヽニ至レハ其位置ヲ變フヘシ

馬ニハ鞍囊ヲ除去シタル鞍ヲ置キ水勒ヲ裝ス而シテ鐙ハ其用法ヲ教授スルニ至ル迄ハ其革ト共ニ之ヲ脱シ置クヘシ

第四十一條

此演習ハ不定距離ト定距離トニ分チ先ツ不定距離ノモノヲ行ハシメ次に定距離ノモノヲ行ハシム

第四十二條

不定距離演習ニ在テハ兵卒ヲシテ各個ニ獨

立セシメ其驕度及ヒ方向ヲ常ニ正フセシムヘシ

不定距離演習ハ蹄跡上ノ定點ニ於テ行フ運動ト不定點ニ於テ行フ運動トニ分ツ

不定點ニテ運動ヲ行フニハ兵卒能ク其地ヲ算シ隣兵ト衝突セサルニ注意スヘシ又定點ニテ運動ヲ行フニ方リ他ノ兵卒ニ遭遇スル時ハ己レ右手前ナレハ右ニ避ケ左手前ナレハ左ニ避クヘシ

第四十三條

定距離演習ニ在テハ各兵卒ヲシテ逐次ニ一米ノ距離ヲ取テ其先行兵卒ニ跟隨シ背轉及離列法ヲ除クノ他不定距離ヲ以テ行フタル諸運動ヲ復習セシメ且ツ輪乘ヲ行ハシム

而シテ廻轉、手前變換、卷乘、半卷及ヒ輪乘ノ運動ヲ行フキハ常ニ先頭兵卒ノミ號令ニ從ヒ直ニ運動ヲ行ヒ他ノ兵卒ハ全ク其運動ニ隨フモノトス

第四十四條

不定距離ニテ行進スル兵卒ヲ定距離ニ移ラシムルニハ教官「某ノ後トヘ」ト令ス此令ニテ指示サレタル兵卒ハ常驛行進中ナレハ駐立シ急驛行進中ナレハ常驛ニ移ル他ノ兵卒ハ先頭ヨリ逐次ニ一米ノ距離ニ閉縮ス

定距離ニ在ル兵卒ヲシテ不定距離ニ移ラシムルニハ教官「不定距離ニ」ノ令ヲ下ス此令ニテ先頭兵卒ハ行進中ナレハ其驛度ヲ

持續シ靜止間ナレハ常驛ニテ進出ス他ノ兵卒ハ急驛行進中ナレハ一旦常驛ニ移リ常驛或ハ靜止間ナレハ駐立或ハ定立シ先行兵卒ヨリ距離ヲ得ルニ從ヒ之ト同一ノ驛度ヲ取り進出ス
駢驛行進中ニ在テハ此運動ヲ行フコトナシ

常驛

第四十五條

常驛ハ驛度中ノ最モ緩ナルモノニシテ馬ノ最モ久シク堪フヘキモノナリ此驛度ニ在テハ四肢逐次ニ地ヲ離レ又其順序ニ從テ逐次ニ地ニ着ス即チ右(左)前肢先ツ驛ヲ進ムレハ次ニ左(右)後肢次ニ左(右)前肢又其次ニ右(左)後肢驛ヲ進

ム而シテ常ニ其二個ハ地ヲ離レ他ノ二個ハ地ニアルモノトス
常驃ノ速度ハ馬ニ因テ多少ノ差アレトモ大約一分時間ニ九十乃至
百米トス

直進、駐立

第四十六條 乘馬ニテ靜止ニ在ルキ教官左ノ令ヲ下ス

- 一 前へ
- 二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ馬ノ感性ニ應シ適度ニ脚ヲ緊メ踵ヲ以テ
腹帯ノ後方ヲ壓シ少シク拳ヲ下ク此時膝ヲ開カス又上ケサルコ

ニ注意スヘシ

第四十七條 常驃行進間教官左ノ令ヲ下ス

- 一 砲兵
- 二 止レ

「止レ」ノ令ニテ兵卒ハ驃度ヲ緩ニスル爲メ適度ニ拳ヲ上ケ漸次
ニ驃ヲ止ム此時馬ノ退却シ或ハ左右ニ偏スルコトナカラシカ爲メ
少ク脚ヲ緊メ踵ヲ腹帯ノ後方ニ當ツヘシ

轉回

第四十八條 靜止或ハ行進間教官左ノ令ヲ下ス

水勅演習

一 左(右)へ或ハ 半ハ左(半ハ右)へ

二 進メ

三 止レ(前へ)

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ左(右)脚ヲ緊メ左(右)韁ヲ少シク左(右)方ニ開キ右(左)脚ニテ馬ノ腰部ヲ維持シ又右(左)韁ヲ以テ右(左)ノ頸側ヲ壓シ馬ヲシテ半徑二米ノ弧ヲ畫キ以テ左(右)或ハ半左(半右)向ヲ爲サシム

「止レ(前へ)」ノ令ニテ駐立(直進)ス

背轉

第四十九條

靜止或ハ行進間教官左ノ令ヲ下ス

一 半輪ニ左(右)へ

二 進メ

三 止レ(前へ)

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ左(右)向ヲ二回續ケテ行ヒ次テ半左(半右)向ヲ爲シ以前行進セシ線上ニ達スレハ更ニ半右(半左)向ヲ爲ス

「止レ(前へ)」ノ令ニテ駐立(直進)ス

右(左)手前行進

第五十條 兵卒己レノ右側ヲ馬場ノ内方ニセルキハ右手前又之ニ反スルキハ左手前ト云フ

第五十一條 兵卒馬場ノ縦ナル中央線上ニ各三米ノ間隔

ヲ取り一列ニ並ヒ靜止ニアルキ教官左ノ令ヲ下ス

一 右(左)手前ニ

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ右翼ニアル兵卒ヨリ一騎ツ、常驪ニテ前進シ縦ノ蹄跡ヨリ二米前ニ到レハ右(左)轉回ヲ爲シテ行進ス次ノ兵卒ハ教官ノ指示ニ從ヒ逐次ニ先行兵卒ト同運動ヲ行フ

兵卒蹄跡ヲ行進シアルキ己レノ前方ニ在ル兵卒ト甚シク接近シタルキハ教官ノ指示ニ從ヒ正シキ廻轉法ニヨリ蹄跡上人員寡キ處ニ赴クヘシ(第一圖)

急驪

第五十二條 急驪ハ遠距離ヲ速ニ行進スルニ適スル驪度

ナリ而シテ其驪法ハ前後斜メノ二肢逐次ニ地ニ着シ又逐次ニ地ヲ離ル又其速度ハ馬ニ因テ差アレキ一分時間ニ約二百乃至二百三十米トス

常驪ヨリ急驪急驪ヨリ常驪行

進

第五十三條

常(急)馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

一 急(常)馳

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ靜止ヨリ常馳(常馳ヨリ駐立)ニ轉スル方
法ヲ活用シテ急(常)馳ニ移ル

横(縦)方廻轉

第五十四條

右(左)手前行進間教官左ノ令ヲ下ス

横(縦)ニ廻レ

「横(縦)ニ廻レ」ノ令ニテ兵卒ハ縦(横)ノ蹄跡ノ中點ヲ標スル旗
ヨリ三米前ニ到レハ右(左)轉回ヲナシ反對蹄跡ニ向テ眞直ニ行
進シ其蹄跡ヨリ二米前ニ到レハ再ヒ右(左)轉回ヲ爲シテ蹄跡ニ
入ル(第二圖)

各個廻轉

第五十五條

右(左)手前行進間教官左ノ令ヲ下ス

各個ニ廻レ

「各個ニ廻レ」ノ令ニテ兵卒ハ各個ニ右(左)轉回ヲ爲シ反對蹄跡
ニ向テ行進シ其蹄跡ヨリ二米前ニ到レハ再ヒ右(左)轉回ヲ爲ス

但シ隅角ニ甚シク接近シタル兵卒ハ之ヲ經過シタル後之ヲ行フ
(第三圖)

又縦ニ廻ル兵卒ハ横ニ廻ル兵卒ニ衝突セサルヲ注意スヘシ

横(縦)方手前變換

第五十六條

右(左)手前行進間教官左ノ令ヲ下ス

横(縦)ニ手前ヲ變ヘ

「横(縦)ニ手前ヲ變ヘ」ノ令ニテ兵卒ハ最初「横(縦)ニ廻レ」ノ時
ノ如ク右(左)轉回ヲ爲シ其反對蹄跡ヨリ二米前ニ到レハ左(右)
轉回ヲ爲シ手前ヲ變ヘテ蹄跡ニ入ル

手前變換ヲ終リタル兵卒已ニ蹄跡ニ入ルニ方リ未ダ運動ヲ始メ
サル兵卒ハ蹄跡ヨリ一米ヲ隔テ内方ヲ行進ス

斜メ手前變換

第五十七條

右(左)手前行進間教官左ノ令ヲ下ス

斜メニ手前ヲ變ヘ

「斜メニ手前ヲ變ヘ」ノ令ニテ兵卒ハ隅角ヲ通過シ縦ノ蹄跡上三
米行進シ半右(半左)向ヲ爲シテ反對隅角ヨリ六米前ニ向テ行進
シ其點ニ達スレハ手前ヲ變ヘテ蹄跡ニ入ル(第四圖)
手前變換ヲ終リタル兵卒已ニ蹄跡ニ入ルニ方リ未ダ運動ヲ始メ

サレ兵卒ハ蹄跡ヨリ一米ヲ隔テ内方ヲ行進ス

卷乘

第五十八條

行進間教官左ノ令ヲ下ス

マキノ
卷乘リ

「卷乘リ」ノ令ニテ兵卒ハ馬場ノ横幅ノ半ニ等シキ中徑ノ輪形ヲ其内方ニ一回畫キ運動終レハ故トノ方向ニ復シ蹄跡ヲ行進ス
(第五圖)

兵卒此運動ニ馴ル、ニ從ヒ輪形ノ中徑ヲ減スヘシ

半卷

第五十九條

行進間教官左ノ令ヲ下ス

ハンマ
半卷キ

「半卷キ」ノ令ニテ兵卒ハ卷乘ノ中徑ト等シキ半輪形ヲ馬場ノ内方ニ一回畫キ次テ斜メニ手前ヲ變ヘツ、故トノ蹄跡ニ入リテ行進ス但シ號令ノ際隅角ヲ纔ニ超過シタル兵卒ハ尙前進シ其地ヲ得ルニ從テ此運動ヲ行フ(第六圖)

退却、駐立

第六十條

靜止間教官左ノ令ヲ下ス

一 後トヘ

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ馬ノ其腰ヲ側方ニ偏シ或ハ急ニ退却スルヲ防ク爲メ脚ヲ緊メ適度ニ拳ヲ上ケ馬已ニ退却スレハ拳ヲ下ケ復タ之ヲ上ケ一騾ツ、退却スル如ク手脚ノ動作ヲ爲ス
馬若シ退却ヲ嫌フキハ若干騾前進セシメ或ハ腰ノ姿勢ヲ變セシメ此機ニ乘シテ手脚ノ動作ヲ爲スヘシ

第六十一條

退却シアルキ教官左ノ令ヲ下ス

一 砲兵

二 止レ

「止レ」ノ令ニテ兵卒ハ手脚ノ動作ヲ止メ正シク馬ヲ駐立セシム

常(急)騾ノ伸縮

第六十二條

常(急)騾行進間教官左ノ令ヲ下ス

騾度ヲ伸セ

「騾度ヲ伸セ」ノ令ニテ兵卒ハ韁ヲ少ク緩メ脚ヲ緊メ漸次ニ騾度ヲ伸ハス但シ急(驅)騾ニ至ラシムヘカラス
馬若シ騾度ヲ伸ハサ、ルキハ兩踵ヲ以テ腹帶ノ後方ヲ一層強ク緊メ其伸暢ヲ促スヘシ

騾度ヲ伸ハスキハ兵卒力メテ充分ニ之ヲ伸ハシ要スレハ己ヨリ

先行スル兵卒ヲ乗越ユルモ妨ナシ

第六十三條

常(急)馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

馳度ヲ縮メ

「馳度ヲ縮メ」ノ令ニテ兵卒ハ拳ヲ上ケテ漸次ニ馳度ヲ縮ム但シ駐立(常馳)ニ至ラシム可ラス

第六十四條

馳度ヲ伸縮シアルキ教官左ノ令ヲ下ス

一 常(急)馳

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ漸次ニ常(急)馳ニ復ス

馳度ヲ伸縮シアル時他ノ馳度ニ移ラントスルニハ一旦故トノ馳度ニ復スルヲ要ス

靜止ヨリ急馳急馳ヨリ駐立

第六十五條

靜止ニアルキ教官左ノ令ヲ下ス

一 前へ急馳

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ靜止ヨリ常馳又常馳ヨリ急馳ニ移ル方法ヲ以テ急馳ヲ取ル

第六十六條

急馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

水勒演習

一 砲兵

二 止レ

「止レ」ノ令ニテ兵卒ハ急騁ヨリ常騁又常騁ヨリ駐立ニ移ル方法ヲ以テ駐立ス

拍車ノ用法

第六十七條 兵卒前諸運動ニ熟スルニ至レハ拍車ヲ用ヒシム而シテ拍車ハ扶助又ハ懲戒ノ爲メニ使用スルモノナリ
扶助トシテ拍車ヲ用フルキハ兵卒ハ其馬ノ膚ニ達スル迄踵ノ壓迫ヲ連続スヘシ

懲戒トシテ拍車ヲ用フルキハ兵卒ハ稍々韁ヲ緩メ腹帯ノ後ニ活潑ニ拍車ヲ加フヘシ馬若シ猶ホ順ハサルキハ其順フニ至ル迄連續之ヲ加ヘ決シテ恕スヘカラス

離列法

第六十八條 離列法ハ各種ノ騁度ヲ以テ施行スルモノニシテ馬ヲシテ柔順ナラシムルニ要用ナリ

第六十九條 蹄跡ニ在ル兵卒ヲ一列ニ編成スル爲メ教官左ノ令ヲ下ス

列ニ

「列ニ」ノ令ニテ兵卒ハ正シキ廻轉法ニ依リ捷路ヲ取り教官ノ後方ニ赴キ横ノ蹄跡ヲ背ニシ密接シテ一列ニ位置ス
 是ニ於テ教官ハ離列セシメント欲スル兵卒ヲ呼ヒ之ニ騾度及ヒ手前ヲ示シテ逐次ニ其列ヲ離レシム
 指示セラレタル兵卒ハ靜カニ動作シテ列ヲ離レ反對蹄跡ニ向テ直進ス而シテ此蹄跡ニ着スレハ右或ハ左轉回ヲナシ蹄跡ニ入り列ノ後方ニ止リテ更ニ新列ヲ作ル
 列ニアル兵卒ヲ不定距離ニ復スルニハ第五十一條ノ要領ニ從テ之ヲ行フ

急騾ヲ伸暢シテ漸次ニ驅騾ニ移ル法

第七十條

輪乘ニ

急騾行進間教官左ノ令ヲ下ス

「輪乘ニ」ノ令ニテ兵卒ハ現在行進セル手前ヲ以テ教官ノ周圍ニ集リ教官ヲ中心トシ兩方ノ縦ノ蹄跡間ニ大ナル輪乘ヲ爲ス

第七十一條

騾度ヲ伸セ

輪乘行進間教官左ノ令ヲ下ス

「騾度ヲ伸セ」ノ令ニテ兵卒ハ馬頭ヲ稍々外方ニ向ケ騾度ヲ伸暢

シ馬ヲシテ漸次駈馳ニ移ラシム

第七十二條

駈馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

一 急馳

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ兩拳ヲ適度ニ上ケ輪形ノ中徑ヲ減シ漸次ニ馬ヲシテ自ラ急馳ニ移ラシム

第七十三條

輪乘行進間教官左ノ令ヲ下ス

故トヘ

「故トヘ」ノ令ニテ兵卒ハ現在行進セル手前ト同手前ヲ以テ蹄跡

ニ入り故トノ如ク不定距離ヲ執ル

横馳

第七十四條

此運動ハ靜止間或ハ常馳行進間ニ行フモノニシテ其行進間ニ在テハ兵卒ハ先ツ馬ヲ駐立セシメ運動終レハ號令ナクシテ前進セシム可シ

第七十五條

靜止或ハ常馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

外(内)向横馳

「外(内)向横馳」ノ令ニテ兵卒ハ馬ノ後(前)肢ヲ馬場ノ内方ニ移シ馬ヲ斜メニ蹄跡上(内方)ニ向ケ前肢及ヒ後肢共一馳ツ、交叉

セシメ横駢ヲ行フ

第七十六條

横駢ニ在ルキ教官左ノ令ヲ下ス

故トヘ

「故トヘ」ノ令ニテ兵卒横駢ヲ止メ馬ヲ故トノ手前ニ復シ蹄跡上ニ駐立(前進)ス

駢駢

第七十七條

駢駢ハ駢度中ノ最モ速ナルモノナルヲ以テ其疲勞スルモ亦最モ早シ此駢法ハ三節即チ右(左)駢駢ナレハ第一ニ左(右)後肢第二ニ左(右)前肢ト右(左)後肢、第三ニ右(左)

前肢地ヲ離レ又其順序ニ從テ地ニ着ス

右前肢、左前肢ニ超過シ又右後肢、左後肢ニ超過スルキハ右駢駢ト云ヒ之ニ反スルキハ左駢駢ト云フ

駢駢ノ速度ハ馬ニ因テ差アレヒ一分時間ニ大約三百乃至三百二十米トス

常(急)駢ヨリ駢駢、駢駢ヨリ急

(常)駢行進

第七十八條

常(急)駢行進間教官左ノ令ヲ下ス

一 駢駢カケアシ

水勅演習

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ右(左)手前ナレハ少シク馬ノ臀ヲ右(左)方ニ轉シテ馬ヲ斜メニシ然ル後將ニ駈馳ニ發セントスル機ニ臨ミ少ク兩拳ヲ左(右)後ニ爲シ以テ右(左)前肢ヲ出スニ易カラシム而シテ馳度ヲ急ニシ漸次駈馳ニ移ス爲メ兩脚ヲ緊ム又馬已ニ駈馳ニ移レハ之ヲ正直ニ復ス

第七十九條

駈馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

一 急(常)馳

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ急馳ヨリ常馳ニ移ル法ヲ活用シテ漸次ニ急(常)馳ニ移ル

靜止ヨリ駈馳、駈馳ヨリ駐立

第八十條

靜止間教官左ノ令ヲ下ス

一 駈馳

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ兵卒ハ靜止ヨリ常馳、常馳ヨリ急馳、急馳ヨリ駈馳ニ移ル法ヲ活用シ漸次ニ駈馳ヲ取ル

第八十一條

駈馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

一 砲兵

二 止レ

「止レ」ノ令ニテ兵卒ハ驅騾ヨリ急騾、急騾ヨリ駐立セシムル法ヲ活用シ漸次ニ其馬ヲ駐立ス

鑑ノ用法

第八十二條 鑑ノ用ハ脚ノ重量ヲ負擔セシムル爲メニシテ之ヲ穿ツニハ足ノ二分一ヲ入レ踵ハ足先ヨリ低フス可シ鑑ハ兵卒正シク乘馬シ腰ヲ鞍ニ固着シ脚ヲ垂レタルキ其踏鋏靴ノ踵ノ上際ト同シ高サニアルヲ適度トス

疾馳、英式急騾、障礙通過及ヒ難路通過等ノ時ハ兵卒鑑上ニ倚托

スル爲メ平常ヨリ少シク深ク鑑ヲ穿ツヘシ

第八十三條

兵卒鑑ヲ穿チアルキ教官左ノ令ヲ下ス

鑑ヲ上ケ

「鑑ヲ上ケ」ノ令ニテ兵卒ハ右韁ヲ左手ニ移シ右手ヲ以テ兩鑑ヲ上ケ其革ヲ鞍頭上ニ十字ニ交叉シ右韁ヲ故トニ復ス

第八十四條

兵卒鑑ヲ上ケアルキ教官左ノ令ヲ下ス

鑑ヲ下セ

「鑑ヲ下セ」ノ令ニテ兵卒ハ右韁ヲ左手ニ移シ右手ヲ以テ鑑ヲ下

シ右韁ヲ故トニ復シ頭ヲ垂ル、コナク又手ノ助ヲ用ヒスシテ鐙
ヲ穿ツ

乘馬、下馬

第八十五條

兵卒馬場ノ縦ナル中央線上ニ各三米ノ間隔
ヲ取り縦ノ蹄跡ヲ背ニシ一列ニ並ヒ右手ニ韁ヲ持テ徒歩ノ姿勢
ニ在ルル教官左ノ令ヲ下ス

乗レ

「乗レ」ノ令ニテ兵卒ハ右向ヲ爲シ右手ヲ左韁ニ沿フテ滑ラシツ
、一步右横ニ倚リ鐙ニ相對シ同時ニ右手ヲ鞍上ニ置キ左足ニ鐙

ヲ穿チ(要スレハ手ヲ用ヒ)足先ヲ馬ノ肋ニ觸レサラシメ且ツ左
膝ヲ鞍ニ附接スル如ク馬ニ近ツキ左手ニテ韁ノ上ヨリ鬣毛ヲ執
リ其毛端ヲ小指ノ方ニ出シ然ル後右手ヲ鞍尾ニ移ス
鬣毛ヲ強ク引キ右足ヲ以テ機ミヲ發シ同時ニ右手ニテ鞍尾ヲ壓
シ鞍ノ廻ルヲ防キ左膝ヲ鞍ニ附着シ鐙上ニ立テ体量ヲ保持ス此
時体ノ上部ハ少シク前ニ傾ケ右足ヲ左足ノ側ニ來タシ一霎時間
此姿勢ヲ保ツ

右手ハ韁ヲ保テ鞍頭上ニ置キ變へ右脚ハ少シク膝ヲ屈シテ拍車
ヲ馬ニ觸、コナク馬臀ノ上ヲ越エシメ輕ク鞍上ニ跨リ兩手ニ韁

テ分チ右鐙ヲ穿ツ

第八十六條

兵卒馬場ノ縦ナル中央線上ニ一列ニ並ヒ靜止ニアルキ教官左ノ令ヲ下ス

下リ

「下リ」ノ令ニテ兵卒ハ右韁ヲ左手ニ移シ其韁端ヲ拇指ノ方ニ出シ再ヒ右手ノ爪ヲ下方ニ向ケ左手ノ拇指ニ接シテ韁ヲ執リ而シテ同手ヲ鞍頭上ニ置キ右足ヲ鐙ヨリ脱シ又左手ニ韁ノ上方ヨリ鬣毛ヲ執リ其毛端ヲ小指ノ方ニ出ス

左ノ鐙上ニ立テ体重ヲ保持シ右脚ハ馬体ニ觸レヌシテ馬臀ノ上

ヲ越エシメ左脚ノ側ニ來ヌシ左膝ヲ鞍ニ附着シ体ノ上部ヲ少シク前ニ傾ケ同時ニ韁ヲ手中ニ滑ラシツ、右手ヲ鞍尾ニ移シ鞍ノ廻ルヲ防キ一霎時間此姿勢ヲ保ツ

右足先ヨリ輕ク地上ニ下リ兩踵ヲ揃ヘ左手ハ鬣毛ヲ放チ左向ヲ爲シ右手ハ左韁ニ沿フテ滑ラシツ、一步前進シテ乘馬前ノ姿勢ヲ執ル

輪乘

第八十七條

定距離ニテ常(急)馳行進間教官左ノ令ヲ下ス

輪乘ニ

「輪乘ニ」ノ令ニテ先頭兵卒ハ縦ノ兩蹄跡間ニ馬場ノ横幅ノ長サニ等シキ中徑ノ輪形ヲ畫キ他ノ兵卒ハ定距離ヲ保チテ此兵卒ニ跟隨ス(第七圖)

第八十八條

輪乘間教官左ノ令ヲ下ス

- 一 前へ
- 二 進メ

「進メ」ノ令ニテ先頭兵卒ハ蹄跡ニ入り輪乘ニ在リシキノ手前ヲ以テ行進ス他ノ兵卒ハ定距離ヲ保テ此兵卒ニ跟隨ス

輪乘變換

第八十九條

兵卒己レノ右(左)側ヲ輪ノ内方ニシテ輪乘ニ在ルキ教官左ノ令ヲ下ス

輪乘ヲ換へ

「輪乘ヲ換へ」ノ令ニテ先頭兵卒ハ斜行シテ手前ヲ變へ己レノ左(右)側ヲ輪ノ内方ニシテ新輪乘ヲ爲シ其他ノ兵卒ハ定距離ヲ保テ此兵卒ニ跟隨ス(第八圖)

障碍通過

第九十條

兵卒ノ騎坐已ニ堅固ナルニ至レハ障碍通過ヲ演

習セシム此演習ハ大勒演習(障碍通過)ニ説明セル要旨ニ從ヒ施行スヘシ

第三教

大勒演習

第九十一條

大勒演習ハ兵卒善ク騎坐チ堅固ニ保チ且ツ手脚ノ動作チ充分了解セシ後ニ非サレハ行ハシムヘカラス

兵卒馬ヲ導クニハ第五條ニ示セル如ク小勒ノ韁ヲ保持スヘシ

大勒ノ韁ヲ以テ乘馬下馬スルニハ第八十五條ニ示セル方法ニ從フヘシ

大韁及ヒ小韁ヲ執ル法

第九十二條

兵卒ハ大韁及ヒ小韁ヲ兩手ニ執ル此四韁ハ常ニ手ト指ノ動作チ輕ク馬口ニ感セシムル如ク保持スルト左ノ如シ

大勒及ヒ小勒ノ左韁ヲ左手ニ右韁ヲ右手ニ執リ大韁ハ小指ノ下方ニシ小韁ハ無名指ト中指ノ間ニス而シテ韁ノ端ハ拇指ト食指ノ間ヨリ外方ニ出シ前方ニ垂レ諸指ハ閉チ拇指ニテ韁ノ滑動スルチ支ユル爲メ食指ノ第二節上ニ之チ壓ヘ肘ハ自然ニ垂レ輕ク體ニ接シ兩手ハ水勒韁ヲ執リタルキノ如クシ特ニ拇指ヨリモ小

指ヲ体ニ近ツクヘシ

第九十三條 右手ヨリ韁ヲ放ツチ要スルキハ大勒ノ右韁ヲ左手ノ小指ト無名指ノ間ニ又小勒ノ右韁ヲ左手ノ中指ト食指ノ間ニシ左手ニアル韁ト共ニ持チ拳ヲ少シク内方ニ向ケ指ハ皆ナ体ノ方ニ向ハシメ特ニ拇指ヨリモ小指ヲ体ニ近ツクヘシ

第九十四條 左(右)韁ヲ調フルニハ右(左)手ノ拇指ト食指トヲ以テ左(右)手ノ拇指上ニ就テ其韁ヲ撮ミ之ヲ高ク上ケ輕ク嚼ニ感セシム同時ニ左(右)手ハ指ヲ少シク開テ馬頸ノ方ニ進メ適度ノ處ニテ指ヲ閉ツ此時馬ノ轉動スルヲ防ク爲メ兩脚ヲ輕

ク緊ムヘシ

大勒小勒ヲ用ヒ水勒演習ノ復習

第九十五條 大勒小勒ヲ用ヒ水勒演習ノ諸運動ヲ復習ス此諸運動ハ總テ水勒演習ニ於ケルト同號令同要領ニ從フ

大距離演習

第九十六條 此演習ノ目的ハ左ノ如シ

- 第一 馬ヲ直線行進ニ慣ラス
- 第二 大距離ヲ保テ他馬ト弧立セシメ以テ其行進ヲ活潑ナラ

大勒演習

シムル

第三 急馳ヲ伸シテ諸肢ノ働キ發達セシムル

第四 操練上ノ駈馳ニ慣ラス

第五 馬ノ馳速ヲ調ヘル

第六 成列教練及ヒ馬力保存ノ爲メ必要ナル沈靜ヲ得セシム

ル

第七 兵卒ニ英式急馳、伸暢駈馳ヲ學ハシムル

第九十七條

此演習ハ縱約二百乃至三百米横約百米ノ長方形ナル大馬場ニ於テ諸馳度ヲ用ヒテ之ヲ行フ

此演習ハ初メ各騎ニテ行ハシメ後ニ兵卒ヲ集メ小班ト爲シテ行ハシム

此演習ヲ行フニハ兵卒ヲ大馬場ノ蹄跡上ニ大距離ニ配置シ馳度ノ變換ハ號令或ハ喇叭ヲ以テシ手前變換ハ告示ヲ以テス

大馬場ノ隅角及ヒ縱横側ノ中央ニハ標旗或ハ他ノ著明ナル目標ヲ設クヘシ

第九十八條

英式急馳ハ馬場演習ノ外ニ於テノミ用フヘシ英式急馳ヲ行フニハ兵卒ハ急馳行進間先ツ其上体ヲ少シク前方ニ傾ケ鞍ノ反動ヲ避ケ易カラシメ兩膝ハ鞍ニ密着シ兩脚ハ少

シク後ニ引キ常ヨリ深ク踏ミ第二ノ反動ヲ發スル間ハ臀ヲ鞍ヨリ離シテ二個ノ反動中其一ノ個ヲ避クヘシ而シテ臀ノ鞍ヲ離ル、丁多カラス鞍ニ再觸スル柔カニシテ衝突セス踏ミ踏ム丁輕ク踵ハ足先ヨリ低キヲ要ス

第九十九條

伸暢駢馳ハ駢度ヲ伸ハス要領ニ從ヒ施行スヘシ而シテ此駢馳ヲ演習スル馬場ハ其縱五百米以上ナルヲ要ス

兵卒ヲシテ伸暢駢馳ノ速度ヲ増加シ疾駢ヲ演習セシムル丁アリ但シ此駢度ヲ取ラシムル距離ハ六十乃至八十米トス

補註 疾駢ハ各兵卒ヲシテ逐次ニ行ハシム兵卒ハ教官ノ指示

ニ從ヒ其手ヲ緩ルメ又要スレハ拍車ヲ用ヒ漸次ニ駢度ヲ伸ハスヘシ然レモ馬ヲシテ放肆ナラシムルニ至ルヘカラス

疾駢中ハ兵卒上体ヲ少シク前方ニ傾ケ兩膝ヲ固着シ踏上ニ倚托スヘシ

疾駢ヨリ逐次緩ナル駢馳ニ移スニハ手脚ノ動作ヲ加減シ以テ駢度ヲ短縮スル要領ニ從ヒ上體ヲ稍々後方ニ致スヘシ

第一百條

大馬場若クハ練兵場ノ縱側ニ標旗若クハ他ノ目標ヲ設ケ諸駢ノ速度ヲ左表ニ適合セシムヘシ

一分時間ニ經過スル距離	一吉米ヲ進行スル時間
常 駢	常 駢
急 駢	急 駢
駢 駢	駢 駢
九十米	九十分七秒
二百米	四分四十六秒
三百米	三分二十秒

障碍通過

第一百一條

此演習ノ目的ハ兵卒ノ勇氣ヲ養ヒ騎坐ヲ固フシ兼テ野外障碍通過ノ法ヲ預メ教フルニアリ

此演習ハ最初兵卒ヲシテ各個ニ施行セシメ後ニハ若干距離ヲ執リ二騎或ハ四騎等ニテ之ヲ行ハシムルコトアリ

最初ハ兵卒ヲシテ鎧ヲ用ヒテ行ハシメ後ニハ鎧ヲ脱シテ之ヲ行ハシム之レ兵卒常慣ノ倚托物ヲ失フモ敢テ過失ナカラシメンカ爲ノナリ又韁ヲ放ダシムルコトアリ

此演習ハ毎ニ馬場運動ノ終リニ施行スヘシ是レ一ハ兵卒ノ騎坐ヲ固フスルト一ハ演習後直チニ下馬シ歸厩スルヲ以テ馬モ亦勇ンテ通過スルニ至ルノ利アレハナリ

第一百二條

通過スヘキ重ナル障碍ハ左ノ如シ(第九圖)

- 一 幅飛 即チ溝、壕等
- 二 高飛 即チ籬、柵、土(石)(木)壁等

三 隘路 即チ小橋、小堤等

第三百三條 障碍ヲ飛越スルニハ駈騁ヲ以テスルヲ常則トス但シ高飛ヲ爲スニハ緩ナル騁調、幅飛ヲ爲スニハ少シク伸暢シタル騁調ヲ用フヘシ

第三百四條 障碍ヲ通過スル方法左ノ如シ

障碍ヲ飛越スルニハ先ツ深ク鎧ヲ穿チ韁ヲ揃ヘ小勒ノ功用ヲ強フスル爲メ少シク大韁ヲ緩ルメ最初常騁ニテ進ミ漸次駈騁ニ移リ障碍ニ向テ眞直ニ行進スヘシ既ニ障碍ニ接近スレハ兩脚ヲ以テ馬ヲ擁持シテ前進セシメ手ヲ下ケ韁ヲ緩ルメ馬ノ已ニ機ミテ

起シ飛ハントスル際上體ヲ輕ク前方ニ傾ケ又地ニ着スル際兩拳ノ位置ヲ變スルナク上體ヲ後方ニスヘシ而シテ飛越後ハ漸次騁度ヲ緩ニシ常騁ニ移ルモノトス
小橋等ノ通過ハ馬匹ノ動作ヲ牽制スルコトナク力メテ之ヲ沈靜ニシ且ツ其自由ニ任スヘシ
馬若シ障碍ニ接近シテ之ヲ通過スルヲ嫌フキハ烈ク兩脚ヲ緊メ其抵抗ヲ制シ通過セシムヘシ
馬若シ斜メニ逸スルキハ故トノ位地ニ復シ再ヒ障碍ノ方向ニ向ケ勉メテ近ク障碍ニ導キ通過セシムヘシ

馬若シ右(左)轉回ヲ爲シテ後方ニ逸スルキハ左(右)轉回ヲ行ヒ舊位置ニ復シ障礙ニ導キ通過セシム可シ

馬若シ障礙前ノ地ニ於テ俄然駐立スルキハ馬ニ障礙ヲ逃避シ得ヘキ心ヲ起サ、ラシムル爲メ左右ニ轉回ヲ爲サシムルナク徐々退却セシメ再ヒ通過ヲ試ミ遂ニ通過ヲ決スル迄反復之ヲ行フヘシ

馬若シ頸ヲ伸スキハ常駢ニ復シ或ハ障礙ニ接近スル迄駢度ヲ緩ニスヘシ而シテ其已ニ通過ノ機ヲ起サントスルニ當テハ馬ノ自由ニ任スヘシ

馬若シ通過ヲ嫌ヒテ肯セサルキハ下馬シテ小韁ノ最端ヲ執リ馬ヲ引キ已レ先ツ通過シ次ニ馬ヲシテ通過セシムヘシ

野外演習

第二百五條

此演習ノ目的ハ兵卒ヲシテ諸種ノ地ニ臨テ馬ヲ馱スル、出會スル所ノ障礙ヲ危殆ニ陥ラスシテ通過スル、及ヒ大距離ヲ經過スルキ馬ヲ疲勞セシメサル、ヲテ學ハシムルニアリ

第二百六條

此演習ヲ行フニハ兵卒ヲ野外其他各種ノ道路ニ導キ一騎或ハ數班ニ分チテ常駢、急駢ノ演習ヲ復習セシム此時

教官ハ兵卒ニ左ノ條件ヲ教ユヘシ
 此演習ニ在テハ其驕度ヲ極度ニ伸スナク其速度ヲ常ニ均シク保
 チ常驕ト急驕トヲ交換施行スヘシ急驕ハ登坂、降坂ニ於テハ大
 ニ馬ヲ疲勞セシムルト馬具ノ爲メニ馬ヲ傷ツクルトアルニ由テ
 成ルヘク平地ニノミ之ヲ行ヒ又馬ノ疲勞ヲ防キ且ツ四肢ニ激セ
 サル爲メ道路ノ側方ヲ行進スヘシ道路ノ側方ハ土地常ニ軟質ナ
 ルモノナリ其他急驕ノ時間ハ漸次ニ増加シ一時ニ長ク行フヘカ
 ラス多クモ二乃至三吉米ヲ限リトス而シテ其行進スヘキ行程即
 チ時間ニ應シ其間ニ行フヘキ常驕ノ各時間ヲ定ム又行進ノ終ハ

固ヨリ常驕ヲ以テスルモノナリト雖モ其行程遠キカ又ハ險惡ナ
 レハ愈々此常驕時間ヲ延スヘシ
 險坂ヲ登ルニハ兵卒ハ馬ニ行進ノ方向ヲ與フルヤ韁ヲ緩ルメ上
 體ヲ前方ニ傾ケ鐙ニ倚リ要スレハ右韁ヲ左手ニ移シ韁ノ下ヨリ
 右手ヲ以テ鬣毛ヲ執ルヘシ
 險坂ヲ降ルニハ兵卒ハ上體ヲ後方ニ引キ要スレハ右韁ヲ左手ニ
 移シ右手ヲ以テ鞍尾ヲ握ルヘシ
 險坂長大ナルトハ兵卒ハ徐々ニ登降スヘシ而シテ土質滑カナル
 トハ斜行ヲ爲スヘカラス又要スレハ下馬シテ馬ヲ導クヘシ

地甚々凹凸ナルキハ兵卒ハ戒心シテ手脚ヲ用ヒ可成馬ニ自由ヲ與フル如クスヘシ
 粘土或ハ泥地ナルキハ鎧上ニ倚托シ馬ノ後軀ヲ輕フスヘシ
 沼澤ノ地ヲ通過スルキハ兵卒ハ徐々ニ行進シ縱列ヲ爲スヘカラ
 ス若シ馬ノ蹄深ク没入スルカ若クハ馬恐ル、カ或ハ避ケントス
 ルキハ下馬シテ之ヲ導クヘシ
 川ヲ渉ルキハ兵卒ハ淺瀬ニ從ヒ斜メニ渉ルヘシ此時馬ヲシテ決
 シテ水ヲ飲マシムヘカラス
 右ニ記スル險坂、凹凸地、粘土、泥地、沼澤地、川等ニ出會スルキ

ハ兵卒ハ成ルヘク之ヲ避ケ假令ヒ迂路ナルモ甚シク遠キニアラ
 サレハ却テ之ヲ取ルヲ優レリトス

附錄

乘馬成列教練

第百七條 乘馬成列教練ハ其所要甚々少シ故ニ乘馬セル一
 隊ノ兵卒ヲ誘導スルニ必要ナル單簡ノ運動法ヲ示スノミ而シテ
 一名ノ士官ヲ以テ教官ト爲ス
 此教練ニ於テ隊ヲ編成スルニ兵卒ノ員數ヲ一定セス而シテ其兩
 翼ニ上等兵ヲ置ク

一名ノ下士ヲ以テ嚮導トシ第一列ノ右翼一米ニ占位セシム
教官ハ一定ノ位置ナシ故ニ運動ノ施行、乗馭ノ方法ヲ監視スル
ニ便ナル點ニ占位スヘシ

教官ハ刀ヲ肩ニス而シテ運動ハ刀ヲ以テ之カ記號ヲ爲スモノト
ス

嚮導ハ教官ノ號令アレハ手號ヲ以テ之ヲ示ス

兵卒運動ニ熟スルニ至レハ號令ナクシテ獨リ手號ヲ用ヒ縱隊方
向變換ノ如キハ唯嚮導ノ馬ノ方向ヲ以テ之ヲ示スコトアリ

下士ノ剩員アルキハ横隊ニ在テハ之ヲ押伍ニ列セシメ縱隊ニ在

テハ其後尾ニアラシム

此教練ニ在テハ兵卒砲兵刀ヲ帶フルモノトス

運動ハ兵卒ノ能ク了解スルニ至ルマテ先ツ常馳ヲ以テ之ヲ行ヒ
後チ急馳遂ニ駈馳ヲ以テス但シ駈馳ノ劇烈ニ過キサルコトニ最モ
注意スヘシ

運動ヲ行フニ方、急激ニ其馳度ヲ發ス可カラス故ニ靜止ヨリ駈
馳ニ進出スルニハ先ツ常馳ヲ以テシ漸次ニ延伸シテ急馳ニ移シ
遂ニ其馬ヲシテ自ラ駈馳ヲ取ルニ至ラシム可シ而シテ各兵卒ハ
其馬ノ駈馳ニ移ルト否トニ係ハラズ整頓ヲ保ツコトニ最モ注意ス

ヘシ駈騁ヨリ駐立スルモ亦急激ニ之ヲ行フ可ラス必ス漸次ニ騁度ヲ減縮スルヲ要ス故ニ兵卒ハ其馬ノ漸次駐立スルニ至ルマテハ補助ノ作用ニ注意スヘシ
此注意ハ隊面愈々廣大ナルカ其深愈々増加スルニ從テ愈々切要ナルモノトス

横隊ノ運動

乘馬、下馬

第百八條 各馬ノ間ニ一米ノ間隔ヲ存シテ二列ニ併列シ兵卒ハ各其馬ノ左側ニシテ乘馬前ノ姿勢ニ在リ而シテ第二列ハ第

一列ノ後方四米ニ嚮導ハ乘馬シテ第一列ノ右翼一米ノ處ニ位置シ押伍モ亦乘馬シテ第二列ノ後方四米ニ在リ
於是教官左ノ令ヲ下ス

二騎ニ數ヘ

「二騎ニ數ヘ」ノ令ニテ各兵卒ハ其位置ニ從ヒ各列ノ右方ヨリ左方ヘ逐次ニ一、二、一、二、一、二、等ト其番號ヲ唱フ

第百九條 教官左ノ令ヲ下ス

乘レ

「乘レ」ノ令ニテ各兵卒ハ全時ニ乘馬シ第二列ハ第一列ニ向テ其

距離ヲ一米ニ閉縮ス

押伍ハ第二列ノ後方四米ニ到ル

第一百十條

乗馬シアルキ下馬ヲ爲サシムル爲メ教官左ノ令

ヲ下ス

下リ

「下リ」ノ令ニテ嚮導及ヒ第一列ハ三米前進シ然ル後各兵卒全時
ニ下馬ス

嚮導及ヒ押伍ハ「休メ」ノ令アラサレハ下馬スルヲナシ

整頓

第一百十一條

教官先ツ嚮導ノ位置ヲ正シ然ル後左ノ令ヲ

下ス

準へ

「準へ」ノ令ニテ各兵卒ハ頭ヲ嚮導ノ方ニ回ラシ正シク其間隔ヲ
取り之ト一線上ニ位置シ眼ヲ同列兵ノ線上ニ定メ僅ニ此方ニ隣
レル第二兵卒ノ胸ヲ見ルヲ度トス又馬ノ方向ハ必ス正面ト直角
ナラサルヘカラス

第二列兵ハ其第一列兵ノ後ニシテ之ト同方向中ニ正シク占位シ
一米ノ距離ヲ存スヘシ

整頓成レハ教官左ノ令ヲ下ス

直レ

「直レ」ノ令ニテ各兵卒ハ頭ヲ正直ニ復ス教官ハ隊ノ側方ニ到リ側面ト直角ニ位置シ整頓ヲ驗ス

要スルニアラサレハ駐立スルモ更ニ整頓ノ號令ヲ下スコトナシ故ニ嚮導ハ稍前進シ各兵卒ハ之ニ整頓スヘシ

直進、駐立

第一百十二條

靜止ニアルキ教官ハ嚮導ニ方向ノ一點ヲ示

シテ左ノ令ヲ下ス

一 前へ

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ各兵卒ハ同時ニ常歩ニテ運動ヲ起シ嚮導ニ準テ行進ス而シテ嚮導ノ方ヨリ來ル壓迫ハ之ニ從ヒ之ニ反スル方ヨリ來ル壓迫ハ之ニ抗ス可シ

靜止ヨリ他ノ驛度ヲ以テ行進セシムルニハ前ト同要領ニ從フヘシト雖モ豫令ニ次テ其驛度ヲ令スルヲ異ナリトス

第一百十三條

行進間教官左ノ令ヲ下ス

一 砲兵

二 止レ

「止レ」ノ令ニテ嚮導及ヒ諸兵卒駐立ス

退却、駐立

第一百十四條

靜止間教官左ノ令ヲ下ス

一 後アトへ

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ嚮導及ヒ諸兵卒ハ退却ス

第一百十五條

退却間教官左ノ令ヲ下ス

一 砲兵

二 止レ

「止レ」ノ令ニテ嚮導及ヒ諸兵卒ハ駐立ス

縦隊ノ運動

二 騎縦隊ニ分解

第一百十六條

横隊靜止ニ在ルキ教官左ノ令ヲ下ス

一 伍々クニクニ右へ

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ嚮導ハ右へ轉回シ其身前へ直進ス右翼ナル第一番及ヒ第二番ノ前列兵ハ其後列兵ヲ從へテ右向ヲナシ一米ノ距

離ヲ保テ嚮導ニ跟隨ス其他ノ各兵卒ハ右ノ要領ニ從ヒ逐次ニ右
へ轉回シ縱隊線ニ入ル

直進、駐立

第一百十七條 靜止間教官左ノ令ヲ下ス

- 一 縱隊前へ
- 二 進メ

「進メ」ノ令ニテ縱隊ハ一齊ニ常騾ヲ以テ進出ス
靜止ヨリ他ノ騾度ヲ以テ行進セシムルハ前ノ要領ニ從フヘシト
雖モ預令ニ次テ其騾度ヲ令スルヲ異ナリトス

第一百十八條 行進間教官左ノ令ヲ下ス

- 一 縱隊
- 二 止レ

「止レ」ノ令ニテ縱隊駐立ス

第一百十九條 行進間嶮惡ナル土地ヲ通過スルキハ距離間

隔ヲ斟酌スルヲ許ス

教官ハ行進ヲ監視スル爲メ時々縱隊ノ側面若クハ後方ニ占位ス
ルヲ良トス

方向變換

第二百二十條

教官左ノ令ヲ下ス

- 一 縱隊左(右)へ 或ハ 縱隊半ハ左(半ハ右)へ
- 二 進メ
- 三 前へ

「進メ」ノ令ニテ嚮導ハ圈ノ四分一或ハ八分一ノ弧ヲ畫シテ新方向ニ入り「前へ」ノ令ニテ身前へ直進ス

嚮導ノ畫スル弧ハ半徑三米トス先頭伍ハ嚮導ニ隨行シ其他ハ先頭伍ノ方向ヲ變換シタル地ニ到リ逐次ニ其方向ヲ變換ス

此運動ニ在テハ軸方ノ兵卒ハ其驕度ヲ縮メ外方ノ兵卒ハ其驕度

ヲ持續ス

分解、併合

第二百二十一條

分解ヲ行フニハ行進間ニ在テハ嚮導及ヒ

先頭トナルヘキ兵卒ハ其驕度ヲ持續シ他ノ兵卒ハ一旦駐立スルカ或ハ一旦其驕度ヲ減却シ地幅ヲ得ルニ從ヒ逐次ニ以前ノ驕度ニ復シテ縱隊線ニ入ル

靜止間ニ在テハ嚮導及ヒ先頭トナルヘキ兵卒ハ常驕(號令アレハ其驕度)ヲ以テ行進シ他ノ兵卒ハ逐次ニ先頭ト同驕度ヲ取リテ縱隊線ニ入ル

第二百二十二條

二騎縦隊ニ在ルキ教官左ノ令ヲ下ス

百

一 伍々解^{クミンミワカ}レ

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ先頭伍ヨリ番號ノ順序ニ從ヒ逐次一騎ニ分解ス

第二百二十三條

一騎縦隊ニテ急(駈)馳ニアルキ教官左ノ

令ヲ下ス

一 伍々併セ

二 進メ

「進メ」ノ令ニテ先頭兵卒ハ常(急)馳ニ移リ次行兵卒ハ半左向ヲ

爲シ先頭兵卒ノ高サニ到ルマテ此方向へ行進シ其高サニ達スレ

ハ故トノ方向ニ復シテ常(急)馳ニ移ル其他ノ諸兵卒ハ續テ直進

シ各二番兵ハ其直前ノ一番兵定距離ニ到リテ常馳ニ移ルノ際先

行兵卒ト同法ヲ以テ逐次ニ併合ヲ行フ

縦隊常馳行進或ハ靜止ニ在ルキ併合ヲ行フニハ前ト同號令同要

領ニ從フヘシト雖モ嚮導及ヒ先頭兵ハ定立シ他ノ各兵卒ハ常馳

ヲ以テ併合ヲ行フヲ異ナリトス

横隊ノ編成

第二百二十四條

二騎縦隊靜止或ハ行進間教官左ノ令ヲ下

乘馬成列教練

百一

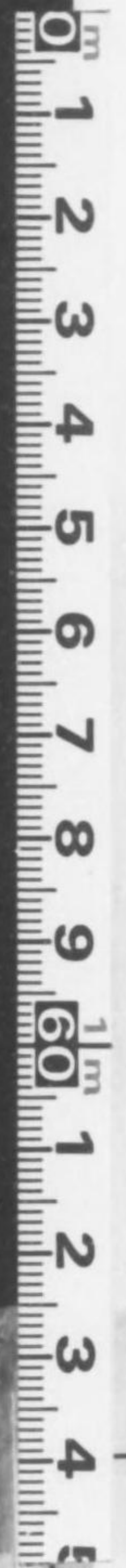
ス

- 一 左横隊
- 二 進メ

「進メ」ノ令ニテ嚮導及ヒ先頭伍ハ左へ轉回シ新方向ニ五米行進シタル後駐立シ其他ノ各伍ハ續テ直進シ各々逐次ニ左(右)へ轉回シ先行伍ノ左方ニ占位シ以テ二列横隊ヲ編成ス

第五圖





圖一第



圖二第



圖三第



圖四第



圖五第



圖六第



圖七第

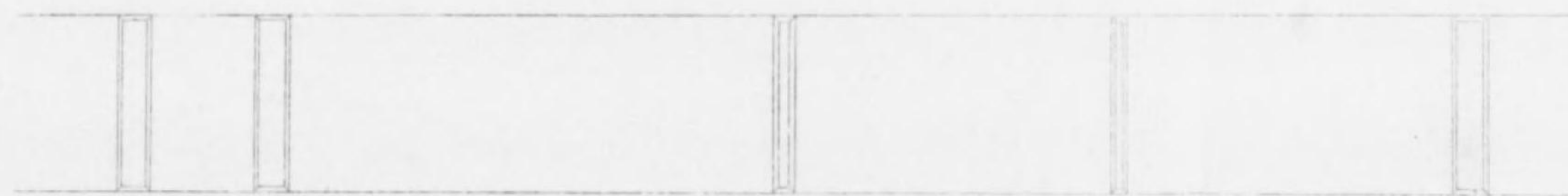
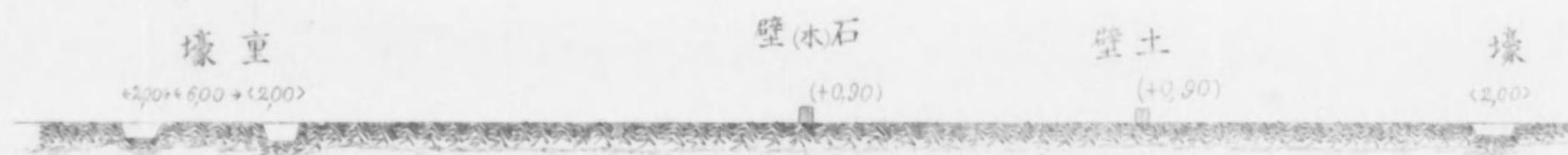
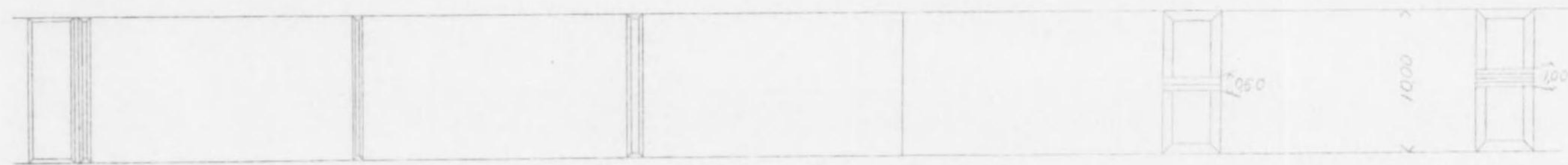


圖八第



策馬ノ志一

シタル後駐立シ其他ノ各伍ハ轉テ前進モ各人選オニズモハ
回シ先行伍ノ左方ニ占位シ以テ二列横隊ヲ編成ス



甲種ニ熟シタル後乙種ノ通過ニ移スヘシ

陸軍省印刷御用

東京府平民

發行者兼

印刷人

小林 又七

京橋區五郎兵衛町
二十一番地

明治廿二年九月廿六日印刷

明治廿二年九月廿六日出版

東洋二

終

